



県では、人口減少下においても、将来に渡って住み慣れた地域に安心して住み続けられるよう、「宮崎ひなた生活圏づくり」の取組として、地域運営組織の形成等を支援しています。この通信では、地域で暮らす人々が中心となって地域課題の解決に取り組んでいる事例など、これからの地域活動のヒントとなるようなものを発信していきます。

住民が運営する地域のミニスーパー (お互いさまスーパー「みせっこあさみない」)

～浅見内活性化委員会(秋田県五城目町)～

地域名：秋田県五城目町浅見内地域
活動地域：秋田県五城目町浅見内地域
団体名：浅見内活性化委員会
スーパー運営部会12人(令和3年11月現在)
地域概況：人口205人、世帯数99世帯
高齢化率67.8%(令和3年10月末現在)
問い合わせ先：
みせっこあさみない 018-854-2211
五城目町まちづくり課 018-852-5361



【取組の経緯等】

- 平成22年に小学校が廃校。バス路線も廃止となり、地域での交流や交通がなくなったことがきっかけで、県の事業を活用し浅見内活性化委員会(以下「委員会」)が設立された。委員会では、高齢者の有償生活支援サービスや2ヶ月に1回程度の買物バスの運行などを実施してきた。
- 委員会は老人会、町内会、婦人会などの役員や民生委員等の地域住民で構成されている。
- 平成27年度に県の事業を活用し、「お互いさまスーパー」(地域の「困りごと」を解決するため、住民自らが主体となって買い物の場となるミニショップを開設・運営する取組)設立の検討を開始。浅見内地域には以前、何店舗かの商店があったが、全て閉店。地区内の商店が1箇所もない状況であった。
- 委員会や町内会で月2回程度の話し合いを重ね、平成28年3月に委員会の「スーパー運営部会」が運営主体となり、旧児童館を改修してミニスーパー「みせっこあさみない」をオープンした。
- 施設改修や設備導入は県や町の補助事業を活用。また、運営資金として住民から一口2,000円を出資金を募り、約60万円を集め、商品の仕入れを行った。
- 仕入れ先を見つけるのには苦労したが、様々な方の協力により、地元スーパーである有限会社ダイサンとの協力関係を築くことができた。

【活動の概要】

- 営業時間は午前10時～午後3時。
- 現在、運営に関して補助等は受けておらず、全て売り上げや自主財源でまかなっている。
- 店舗スタッフは有償ボランティア(1,000円/日)で対応。12人のメンバーが3人ずつ交代制で担当している。
- 仕入れ先の有限会社ダイサンとは協定を結び、店舗運営に関する様々なアドバイスを受けており、ノウハウがない中でも住民主体での運営継続に繋がっている。
- 仕入れた商品のほかに、地域の人々が作った野菜や衣類、民芸品を販売している。

【工夫点や特徴】

- 店舗には食堂を併設しており、食事が目当てで来店する方も多い。メニューはスタッフが負担なく作れる物にしている。
- 食堂を併設した理由は、「集いの場」としての機能を持たせるため。飲んだり食べたり出来るスペースを設けることで、住民が気軽に集まることが出来るようにした。
- 飲食スペースではサロンを開催したり、社会福祉協議会が歌を歌う会を開催するなどしており、開店から5年が経過した現在、「集いの場」としての機能が大きくなってきている。
- 店舗開設時の話し合いには県と町も参加。他県事例や関係法令のアドバイスを受けた。また、現在月1回開催している運営会議には、オブザーバーとして県と町が継続して参加している。



今後も、不定期に県内の活動事例を紹介していきます。地域で暮らす人々が中心となった取組について情報がありましたら、ぜひお寄せください。

宮崎県総合政策部中山間・地域政策課
中山間・特定地域振興担当
電話:0985-26-7036
メール:chusankan-chiiki@pref.miyazaki.lg.jp